



## 野球殿堂入り表彰式 ～競技者表彰～

館長 庄司 正信

競技者表彰のエキスパート表彰で野球殿堂入りをされた田淵 幸一さんの表彰式は、7月19日（日）に福岡 PayPay ドームでのオールスターゲーム第1戦の試合開始前に行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染の影響でオールスターゲームが中止となったため、8月18日（火）東京ドームホテルの宴会場「天空」で行いました。



左から 齊藤 惇理事長、田淵 幸一氏、山本 浩二氏

まず、映像の紹介とともに田淵さん、山本 浩二さん（2008年野球殿堂入り）、野球殿堂博物館の齊藤 惇理事長が登場されました。始めに、齊藤理事長より記念のレリーフのレプリカが贈られました。次に、法政大学時代からのご友人である山本さんより、お祝いの言葉とプロ野球1年目の思い出が語られた後、花束の贈呈が行われました。

その後、田淵さんより「志半ばで旅立った仙ちゃん（星野 仙一氏 2017年野球殿堂入り）のためにも、闘病生活を経て帰ってきた浩二と一緒に、野球界発展のために尽力していこうと改めて決意しました」と力強い言葉がありました。最後にご出席の皆様で撮影が行われ、式は終了いたしました。

今回の表彰式は、新型コロナウイルスの感染防止のため、出席者は田淵さん、山本さん、齊藤理事長の他、田淵さんのご家族、メディアの方とさせていただきました。なお、式終了後、田淵さんご家族は、博物館で殿堂入り特別展を見学されました。



### 田淵 幸一氏略歴

- 1946年9月24日生 法政一高～法政大
- 1969～78年 阪神
- 1979～84年 西武
- 1990～92年 ダイエー監督
- 2002～03年 阪神コーチ
- 2008年 北京五輪日本代表コーチ
- 2011～12年 楽天コーチ
- 実働16シーズン、捕手、指名打者、右投右打、1739試合・5881打数・1532安打・474本塁打・1135打点・打率.260
- 最優秀新人(1969)、最多本塁打(1975)、正力賞(1983)、ベストナイン5回、ゴールデングラブ賞2回

特別展をご覧になる田淵氏

## 野球殿堂入り表彰式 ～特別表彰～

館長 庄司 正信

特別表彰委員会選出の故・前田 祐吉さん、故・石井 連藏さんの野球殿堂入り表彰式を、新型コロナウイルスのため8月15日(土)に延期となった東京六大学野球春季リーグ戦の慶應義塾大学対早稲田大学の試合開始前に、明治神宮野球場で開催しました。

前田さんは、慶應義塾大学でご活躍されたのち、社会人野球のニッポンビール(現・サッポロビール)を経て、1960年に母校の監督に就任。同年秋の「早慶六連戦」を指揮されました。82年2度目の監督に就任。85年の秋季リーグ戦では10勝1分けで無敗優勝。「エンジョイ・ベースボール」をモットーに監督在任18年で8回の優勝を果たしています。また、その後はアジア野球連盟の事務局長として、国際的に野球の普及に貢献されました。

石井さんは、早稲田大学の現役時代の54年秋季リーグ戦では首位打者を獲得、主将、エース、4番打者として優勝に貢献しました。社会人野球の日本鋼管(現・JFE)を経て、58年早稲田大学監督に就任、60年秋の「早慶六連戦」を制し、逆転優勝に導きました。退任後は72年の日米大学野球選手権大会の創設に尽力。88年2度目の監督に復帰すると、90年春に15シーズンぶりの優勝に導くなど、監督在任13年で4回の優勝を果たしました。

当日は強烈な暑さでしたが、表彰式は約3,000人の観衆に見守られ、マウンド付近で行われました。大型ビジョンには前田さん、石井さんを紹介する画像が流れ、場内アナウンスでお二人の業績を紹介する中、前田さんのご息の前田 大介さん、石井さんのご息の石井 拓藏さんがグラウンドに立たれました。

はじめに、野球殿堂博物館・斉藤 惇理事長より記念のレリーフのレプリカの授与、そして大介さんには慶應義塾大学野球部の瀬戸西 純主将から、拓藏さんには早稲田大学野球部の瀧澤 虎太郎副将より、それぞれ花束が贈られました。記念撮影に続き、大介さんより「父は新しい技術、考え方を取り入れ、選手たちが創造性豊かに育つ環境を作ってきました」とお父様の指導法が語られました。続いて、拓藏さんより「このような栄えある場所で紺碧の空の下、表彰式をしていただいたこと、父も喜んでいることと思います」と感謝の言葉がありました。



左から、瀬戸西 純主将、前田 大介氏、斉藤 惇理事長、石井 拓藏氏、瀧澤 虎太郎副将

## 殿堂入りの人々を語る(68)

### 憧れの父

西澤 和夫 (1977年野球殿堂入り 西澤 道夫氏長男)



西澤 道夫氏

父が野球殿堂入りしてからすでに40年以上の歳月が過ぎてしまいました。この度、私が仕事を退いたのを機に寄稿のチャンスをいただくことができました。母の遺志も込めて筆を執らせていただきます。

父は5歳の頃から兄に教えてもらった野球が大好きで、以来野球一筋の人生でした。ご承知のように昭和11(1936)年の職業野球創設時に故・河野 安通志氏(1960年野球殿堂入り)に見いだされ、わずか14歳でテスト生としてプロの世界に身を投じました。戦前は投手、戦後は打者として活躍し、昭和52(1977)年55歳の時に殿堂入りを果たしましたが、その年の暮れに56歳の若さで他界しました。

父は、家庭ではよく冗談を言って家族を笑わせるなど、いつも明るく楽しい父親でした。

私が小学生の時分は「野球」は男子の憧れのスポーツでしたが、父が私に野球を勧めることは一度もありませんでした。私の記憶にあるのは、小学校の時に一度だけ父としたキャッチボールと、後年、父のリハビリのために一緒にしたバットスイング。この2回だけが野球での父との交流でした。「苦勞したから息子には同じ苦勞をさせたくないのよ。」と母。その言葉には戦前、戦後の激動の時代を野球だけで共に生き抜いて来た両親の想いの重みがありました。

父を語る時、ヘラブナ釣りは外すことができません。シーズンオフはもとより、シーズン中も、試合前にユニホームを持って釣りに出掛けるほど好きでした。夜、部屋で静かにしていると、無心に浮きを作ったりしているのです。一緒に釣りに行ったときの優しい笑顔は忘れられません。また、無類の動物好きでもありました。家にはいつもペットがいたものです。ヘラブナ釣りやペットは、厳しい勝負の世界で生き抜く父が心の豊かさを失わないための大切な相棒だったのだと思います。

父はまた、お客さんを招くのが大好きで、我が家は毎日のように来客のある賑やかな家でした。「坪やん！」(故・坪内 道則氏 1992年野球殿堂入り)、「デカちゃん！」(故・杉山 悟氏)、「守道！」(故・高木 守道氏 2006年野球殿堂入り) などなど、多くの方々を愛称で呼び、家は笑い声が絶えませんでした。幼い私にはどんな方々なのか知る由もありませんでしたが、私にはどなたも優しい大人たちで、まるで大きな家族でした。今でも皆さんが笑いながら隣の部屋にいるようです。

どの社会でもそうであるように、輝き続ける人は単に仕事ができるだけでなく、人に愛される人間性を持っているものです。父が殿堂入りできた業績を築けたのも、多くの方々から愛され支持を受けてきた賜物です。父の和やかさ、人への気遣い、家族への温かい眼差し、そしてチームで説いた「和の精神」。これこそが殿堂入りに繋がる父の人間性だったのだと思います。

私が学生の時に父を亡くしたからでしょうか、私には今でも大きな背中のお父さんです。「和夫、マイペース！マイペース！」いつもそう言って私を励まし続けてくれた父、その父を支え続けた母は、今でも私の胸に生き続けています。

そして今、父と母の終の棲家であった東京都日野市平山の地に、父・西澤 道夫の記念ルームを設け、数々の記念品とともに、父が生涯の友であった釣り道具も一緒に展示しています。お近くにはいらした際にはぜひお立ち寄りください。(ご来室の際には、必ず事前に [kaznisi38@gmail.com](mailto:kaznisi38@gmail.com) 西澤 和夫宛までご連絡下さい。)

## 知ってほしいこんな資料(94)

### 第9回極東選手権競技大会の入場券

極東選手権競技大会は、スポーツを通して日本、中華民国、フィリピンの振興を図ることを目的に開催された大会で、1913～34年まで計10回開催されました（第10回はオランダ領東インドも出場）。野球をはじめ、陸上、競泳、テニス、サッカー、バスケットボールなど多岐にわたる競技が行われ、各競技の順位ごとに得点を集計し、国別の合計得点が争われました。野球日本代表は10大会のうち8大会に出場しています。その中でも、東京で開催された30年の第9回大会は、六大学リーグ戦で優勝した慶應義塾大学の9選手をはじめ、早稲田大学から3名、明治大学から2名、法政大学から1名、そのほか慶應義塾大学の卒業生が1名という編成で、初めて各大学から選手たちが選抜されました（それ以前は、単独チームや合同チームが日本代表として出場していました）。

大会は、フィリピン、中華民国と、2回戦総当たりで開催され、日本は4戦全勝で2連覇を達成しました。これはそのうち、5月25日に神宮球場で行われた「日本 対 フィリピン 1回戦」、26日に同じく神宮球場で行われた「日本 対 中華民国 1回戦」の入場券です。

フィリピンとの1回戦は、<sup>すみのみや</sup>澄宮（<sup>みかさのみや</sup>のちの三笠宮）<sup>たかひと</sup>崇仁親王ご臨席のもと開催されました。選抜された選手により日本代表チームが編成されたため、その活躍を見ようと、ファンが溢れんばかりにスタンドへ詰めかけたという当時の記述が残っています。試合は、日本が初回2点を先制すると、2回に8点を奪取し、日本が大量リードする展開となります。守っては宮武 三郎投手が完投し、最終的に10対4で勝利しました。

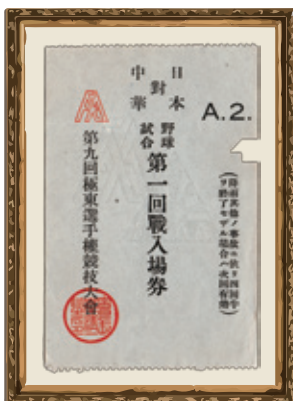
翌日の中華民国との1回戦は、<sup>かやのみや つねのり</sup>賀陽宮恒憲王ご臨席のもと開催されました。フィリピンに1勝したチーム同士の対戦であったため、スタンドは大観衆で埋め尽くされました。試合は、日本が初回から7回まで毎回得点を重ね、守っては若林 忠志投手、上野 精三投手の継投で、21対3と圧勝しました。

日本はその後、29日の中華民国との2回戦を17対10、30日のフィリピンとの2回戦を8対5で勝利します。特にフィリピンとの2回戦は、8回を終えて1-5と劣勢でしたが、9回表に一举7点を奪い逆転し、劇的勝利を収めました。

この大会を通じて、宮武投手、若林投手、上野投手ら投手陣だけでなく、伊達 正男選手、田部 武雄選手、水原茂選手、森 茂雄選手、山下 実選手ら打撃陣も活躍。全4試合で63安打56得点を挙げ、全勝優勝を果たしました。

また、大会の運営にあたっては、市岡 忠男氏、腰本 寿氏、岡田 源三郎氏、藤田 信男氏、村上 実氏らが委員として、三宅 大輔氏、池田 豊氏、天知 俊一氏、横沢 三郎氏らが審判員として名を連ねており、当時球界の第一線で活躍していた方々が携わっていたことが窺えます（なお、上野氏を除く16名は、その後、野球殿堂入りしています）。

極東選手権競技大会はその後、満洲国参加問題での日本、中華民国の対立がきっかけとなり、第10回で幕を閉じることとなります。しかし、第9回大会に出場した選手、役員、審判員をはじめ、この大会には、のちに選手や指導者として活躍する人物が多数携わりました。こうした戦前の選手たちの国際舞台での経験が、現在の野球界へとつながったと言っても過言ではないでしょう。第9回大会の入場券をはじめ、極東選手権競技大会の資料は、常設展示の「野球の歴史」のコーナーで展示中です。ぜひご覧ください。



「日本対中華民国 1回戦」の入場券



「日本対フィリピン 1回戦」の入場券

■第9回大会試合結果

	日本	中華民国	フィリピン	勝	負
日本	-	○ 21-3	○ 10-4	4	0
		○ 17-10	○ 8-5		
中華民国	● 3-21	-	○ 9-6	2	2
	● 10-17		○ 15-4		
フィリピン	● 4-10	● 6-9	-	0	4
	● 5-8	● 4-15			

学芸員 井上 裕太



## こんにちは図書室です



### 『日本野球文献解題』と図書室の蔵書

左の写真は、齋藤 三郎さんが編集し1939年に限定50部発行された全54ページ、タテ22.7cm、ヨコ15.1cmの冊子です。この冊子については野口 岩三郎著『体育書解題』（1953年4月25日 不昧堂書店発行）で、「…齋藤氏が15年間にわたり野球書を蒐集した中の明治大正期における単行本の一切に若干の見聞を加え、それに簡単な注釈を施したもので、洵に汗の結晶たる貴重な文献である。これは50部限定印刷で非売品であるから稀覯本の一であろう。」とあります。

また、木下 秀明、能勢 修一、木村 吉次編著・共著『体育・スポーツ書解題』（1981年1月24日 不昧堂書店発行）でも「本文には「本邦野球文献目録」とある。少年時代の野球への報恩の気持ちで15年来収集してきた野球に関する本を解説したもの」と掲載されるなど、明治大正期の野球の文献を知るうえで、貴重な資料となっています。

内容は書名、編著者名、発行年、発行所と簡単な注釈になります。例えば『最近野球術』では、「早稲田大学野球選手 橋戸 信著 明治38年11月12日 博文館発行」となっており、注釈は「本邦空前ノ米国遠征ヲ終ヘテ帰京セル早大主将橋戸氏が归来鎌倉ニ潜ム事月余、其ノ豊富ナル経験ニ加フルニ米国大選手ノ意見ヲ参酌シ、其他幾多専門ノ書ヲ涉獵ノ結果ニ成レル好著。謂フ所ノ「科学的野球」移入ノ先驅トシテ名アルモノ。附録ニ安部磯雄氏ノ「野球ノ三徳」及「渡米日記」外ニ橋戸氏ノ「米国の野球界」アリ。」となっています。これだけでも、1905年に早大が渡米し、アメリカ大リーグの選手の意見や様々な本を読み漁り著した本だと想像できます。この冊子では、野球のみならず、一般書や学校史、校歌集のようなジャンルの本も何冊か紹介されていますが、注釈を読むと野球に関係する本だとわかります。

編集者の齋藤 三郎さんは、石川 啄木の研究者でした。開館当時の当館に勤務していたことは、当時の職員から「齋藤さんの机があった」と聞いていますが、当館の報告書に齋藤さんのお名前は載っていません。また、齋藤さんは60年2月に亡くなっていらっしゃるの、詳しいことはわからない状態です。

『日本野球文献解題』は『明治文化資料叢書 第10巻 スポーツ編』（明治文化資料叢書刊行会編 1962年12月10日 風間書房発行）に収録されています。この本の最初の「スポーツ文献 解題」で木村 毅氏が、「そして野球は、あらゆるスポーツの花だから友人齋藤 三郎氏の『日本野球文献解題』を併録しておいた。齋藤氏は啄木の研究者として名のある人だが、無類の野球好きでその文献をあつめるために、わざわざ古本屋となり、その集めた結果を謄写版として50部つくったのが、この元稿である。その蒐集文献の多くは、後楽園の野球博物館におさめられている。じつは私が、この文献編集を分担するについては、齋藤氏の協力を求めて2人の名儀で当たる筈であったが、突然の死で、その後の氏の研究を十分に補足して貰えなかったのは遺憾である。」と書いています。

『日本野球文献解題』には177冊の本が紹介されています。その内、現在図書室にあるのは、版や発行年が違うものも含めて126冊です。残念ながらどの本が齋藤さんの本だったのかは分かりませんが、どの本も私たちのみならず、野球の歴史等を調べる人にとって貴重なものであることに間違いはありません。

2019年4月に発行した当館ニューズレターで、当館の蔵書について書きましたが、開館当時からさまざまな方が、50年後、60年後の私たちに必要な野球の本と野球に関わる本を残してくれました。そのおかげで、私たちは明治時代からの野球界とその周辺情報を知ることができます。現在の私たちも、50年後、60年後の野球のことを調べる人たちにとって、野球だけではなくその周辺の人、出来事がわかるような資料を残していきたいと思えます。

#### ■図書室の開室時間の変更

水・金曜日：13:00～14:30、15:00～16:30 日曜日：10:00～12:00、14:00～16:00

※図書室は事前予約制です。ご利用希望日の前日17時までに、お電話で予約をお願いします。

詳しくは、<https://bml.opac.jp/opac/top> でご確認下さい。

司書 小川 晶子

## 野球殿堂博物館 トピックス (2020年6月~8月)

### 6/17 「ベストショット オブ ザ イヤー2019」報知新聞社・清水カメラマンを表彰

企画展「野球報道写真展 2019」の来館者によるファン投票「ベストショット オブ ザ イヤー2019」で、最多の436票を集めた「スワローズ ドリーム ゲーム」を撮影した、報知新聞社・清水 武カメラマンの表彰式を野球殿堂ホールで行いました。清水カメラマンの作品を含め、上位5作品は、12月初旬まで、エントランスホールで展示中です。



### 6/21 巨人球団通算6000勝 ウイニングボール展示

6月19日の開幕戦で読売ジャイアンツが達成した、球団通算6000勝のウイニングボールを21日12時から公開しました。今シーズン終了まで展示の予定です。



### 6/27 中村 順司PL学園元監督ご来館

PL学園野球部元監督の中村 順司氏がご来館し、館内をご見学いただきました。写真は、教え子で2019年に殿堂入りした立浪 和義氏のレリーフに手をかけ笑顔の中村氏。



### 8/2 「野球の記録をつけてみよう! オンライン」を開催

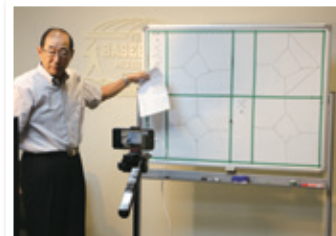
日時：8月2日(日) 14:00~15:40

講師：元セ・リーグ記録部長 石井 重夫 氏

プロ野球(NPB)セ・リーグの石井元記録部長に、野球のスコアの付け方をわかりやすく教えていただく毎年恒例のイベントです。

本年はWeb会議システム(Zoom)を利用した有料イベント(参加費1,100円)として実施しました。「早稲田式」のポジション表記、投球記号、プレー記号についてお話いただいた後、実際の試合映像を見ながら、一球一球記録をつけていきました。

参加者からは、「とても楽しく受講できた」「地方在住者でも参加できて良かった」「初心者でも分かりやすかった」などの声が聞かれました。初めてのオンラインイベントでしたが、多くの皆様からご好評をいただきました。



### 8/3 「夏休み 審判学校! オンライン」を開催

日時：8月3日(月) 14:00~15:30

講師：NPB審判長・友寄 正人氏、チーフ審判技術指導員・平林 岳氏、審判技術指導員・栄村 孝康氏、審判員・川上 拓斗氏

本年はWeb会議システム(Zoom)を利用した有料イベント(参加費1,100円)として実施しました。友寄審判長からは、プロ野球審判員の仕事や、どうすれば審判員になることができるのかについて、お話いただきました。

また、平林指導員からは、審判員の歴史について、栄村指導員からは、審判員のユニホームや用具などについてのお話がありました。そして、球審のストライク・ボールと塁審のアウト・セーフのコールを動画で紹介しながら、川上審判員の指導のもと、コールの実技を行いました。

画面越しにはなりませんが、プロ野球審判員の方から直接お話を聞いたり、迫力あるコールを聞いたり、普段なかなかできない「授業」に、子どもたちは熱心に聞き入っていました。



### 8/7 関根 潤三氏追悼展示

会期：8月7日(金)~11月1日(日)

4月9日に逝去された関根 潤三氏(2003年野球殿堂入り)の功績を改めてご紹介する展示を実施しています。本展では、近鉄時代のトロフィーや、ヤクルト監督時代のユニホーム等、ご家族で大切に保管されてきた貴重な資料を公開します。



### 8/22 オンライントークイベント 2020年野球規則改正

日時：8月22日(土) 11:00~12:00

講師：NPB野球規則委員・井野 修氏

毎年4月に実施している恒例企画で、今回初めてオンラインで開催。青森から沖縄まで、各地からお申し込みいただきました。井野さんから、2020年の野球規則改正や今後の見通し、日本野球規則委員会の役割等をわかりやすくお話いただきました。



## 展 示

### 特集展示「鶴岡一人と南海ホークス」

会期：2020年9月8日(火)~12月20日(日)

会場：野球殿堂博物館 イベントホール

当館ではこの度、鶴岡一人氏ご遺族より同氏ゆかりの資料をご寄贈いただきました。本展では、鶴岡氏の旧蔵品や、当時の選手たちに関する資料を紹介し、鶴岡氏の選手・監督としての功績を日本シリーズのダイジェスト映像とともに振り返ります。



### 企画展「うち de BASEBALL」

会期：2020年9月12日(土)~12月6日(日)

会場：野球殿堂博物館 企画展示室

新型コロナウイルスの影響により、うち時間の過ごし方が見直されていますが、本展では、家庭(うち)を舞台に普及してきた「もうひとつの野球」をテーマに、明治末から現在までの野球をテーマとしたゲームに関する資料を公開しています。



## 「第5回 野球で自由研究!コンテスト」を開催します!

野球殿堂博物館は、今年も、野球をテーマにした小学生の自由研究を対象に、「第5回野球で自由研究!コンテスト」を開催いたします。野球をテーマに自由研究している小学生は、是非ご応募ください。応募者全員に参加賞を用意しています。

- **応募作品**：野球に関することを調べた作品。学校に提出したものでかまいません。  
※小学生のオリジナル作品に限ります。※絵のみ、工作のみの作品はご遠慮ください。  
※壊れやすいものや危険物、輸送や保管が難しいものの出品は、お断りします。
- **応募期間**：2020年8月1日(土)～12月25日(金)(当日の消印、または宅配便受付印有効)
- **発表**：2021年2月に、当館ホームページ上で受賞作品を発表。一部作品を館内で展示いたします。

詳しい申込み方法等については、下記ホームページをご覧ください。

[http://www.baseball-museum.or.jp/jiyu-kenkyu/contest/index\\_2020.html](http://www.baseball-museum.or.jp/jiyu-kenkyu/contest/index_2020.html)

## 博物館からのお知らせ

### ■ 監事・評議員の交代

- 〔新任〕 監事 吉村 秀男氏  
評議員 小林 三郎氏  
〔退任〕 監事 福土 千恵子氏  
評議員 宗像 豊巳氏

### ▶ 理事会 (新型コロナウイルス感染防止のため、書面決議にて実施) 〔第1回〕

- 議題1. 2019年度事業報告・決算報告の承認について  
議題2. 評議員選定委員会委員交代の承認について  
議題3. 会議日程及び議題等の承認について  
報告1. ホームページリニューアル導入時期の変更について  
〔第2回〕

議題1. 第2回評議員会の開催方法・議題の承認について

### ▶ 評議員会 (新型コロナウイルス感染防止のため、書面決議にて実施) 〔定時評議員会〕

- 議題1. 2019年度貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の承認について  
議題2. 定款変更の承認について  
報告1. 2020年度事業計画及び収支予算について  
報告2. 職員の退職並びに採用について  
報告3. 理事長及び業務執行理事の職務の執行状況について  
〔第2回〕  
議題1. 監事の選任について

### ▶ 訃報

2013年に野球殿堂入りされた福嶋 一雄氏が8月27日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

### ▶ 物販

#### ● ポストカード

販売価格：100円(税込)

今年殿堂入りされた、田淵 幸一氏のポストカードが新しく加わりました。ご来館の記念に、ぜひお求めください。



#### ● ありがとう! リストバンド

販売価格：550円(税込)

新型コロナウイルス感染拡大に立ち向かい続ける医療・介護従事者をはじめ全国の皆さまへの感謝の気持ちを込めて、選手等の出場者が随時着用しております。売上金の一部を、医療・介護従事者への支援に使用します。

ありがとう!

※オリジナルグッズに加え「ポストカード」「ありがとう!リストバンド」も、通信販売を受け付けております。詳細は、ホームページをご確認ください。

### ● 全国高校野球選手権大会 第102回大会記念球

販売価格：3,050円(税込)〈ケース入り〉

新型コロナウイルスの影響で中止となりました「第102回全国高校野球選手権大会」の記念球です。毎年、甲子園球場で使用される公式ボールに、「102nd」と刻印されています。

全国高校野球選手権大会オフィシャルグッズショップと、当館のみの販売です。当館での販売は10月末(予定)までとなりますので、お早めにお求めください。



**場 所** 東京ドーム21ゲート右  
**開館時間** 当面の間

平日 13:00～17:00 (最終入館16:30)  
土・日・祝 10:00～17:00 (最終入館16:30)  
東京ドームで巨人戦開催日は、18:00閉館  
(最終入館17:30)

**入 館 料** 大 人 600円 (500円) } ( ) は  
高・大学生 400円 } 20名以上の団体  
小・中学生 200円 (150円)  
65歳以上 400円

**休 館 日** 月曜日(祝日、東京ドームでの野球開催日は開館)  
年末・年始 (12月28日～1月1日)

### 《10月・11月・12月・1月の休館日》

10月 5日・12日・19日・26日  
11月 2日・9日・16日  
12月 7日・14日・21日・28日～31日  
1月 1日・14日・18日・25日

※新型コロナウイルス感染状況により、開館時間の変更や臨時休館になる可能性がありますので、開館日・開館時間につきましては当館のホームページでご確認ください。

●編集後記 今年の夏休みは、初めてのことがばかりでした。リモートでの記録をつけてみようや審判学校をはじめ、野球殿堂入り表彰式も例年とは全く違うものになりました。新型コロナウイルスが、今後どうなるのかわかりませんが、皆さんにとって博物館は、安心、安全で楽しくするための場所であり続けていきます。

野球殿堂博物館 Newsletter 第30巻 第2号

2020年9月25日発行

編集・発行 公益財団法人 野球殿堂博物館  
〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61  
Tel 03 (3811) 3600 Fax 03 (3811) 5369  
<http://www.baseball-museum.or.jp/>



# The Baseball Hall of Fame and Museum

## 公益財団法人 野球殿堂博物館

### リレー随筆 (77)

#### 野球を学べ

競技者表彰委員会幹事 名取 広紀(報知新聞社)

息子が中学受験をしたいと言い出し、この春、我が家にとっての一大イベントとなった。コロナ禍の影響を受ける前の入試だったが、結果、私が学生野球担当時代、何度も取材に訪れた野球強豪校の中学部に進学することになった。

ある日のこと。「なあ、今年はコロナで散々だけど、高校に進学したら、甲子園のアルプス席で同級生を応援できるかもしれないぞ。うらやましいなあ」

こう息子に声を掛けると、浮かぬ表情で「え～そんなことないよ。暑い中、何時間も声を出してさ…汗だらけになるし、疲れるだけじゃん」と、つれなく返されてしまった。「バスに乗って、みんなで甲子園に行くんだぞ。楽しいじゃないか」そう言っても、余計に迷惑そうな顔をするだけだった。

それもそうだ。父親の仕事が野球記者でも、一緒にキャッチボールをしたことがない。というか、やる場所もない。プロ野球を見に行ったことも、数えるほど。恐らく…だが、ルールも分かっていないだろう。テレビの地上波でもほとんど中継がない。野球に親近感が沸かないのも無理ないところか。

野球部長時代、配属が決まった新人記者に言ったのは「自分の担当するチームの歴史を学べ。どんな監督がいて、どんな選手がいたのか。そして、今の監督、コーチ、スタッフが、どんな経歴、球歴を経て、そのチームに所属しているのか。それがチームを愛することにもつながるし、話のきっかけにもなる。必ず仕事に生きるはずだよ」ということだった。

もう30年も前の話だが、新人記者として初めて担当した大洋(現DeNA)の当時の監督・須藤 豊さんと何となく話せるような仲になったのが、須藤さんの毎日時代の助っ人選手の話から、だった。

ある日の練習中の雑談で「昭和20年代にはね、進駐軍からのアルバイトの選手がいてなあ。オリオンズにもいたんだよ」と須藤さんが言うと、間髪入れずに私が「レオ・カイリーですよ!」。「若いのによく知ってるな。そう、カイリーだよ」。このやり取りが、私の存在をアピールすることになった—と後年、須藤さんから聞いた。

私が入社した頃と違って、「野球記者をやりたい!」と言ってスポーツ紙に入ってくる学生は極端に少なくなった。入社試験の面接で「報知に入ったら何をやりたいか?」と問うと、競馬、オリンピックの取材をしたい、という学生が大半だ。だからこそ、野球部に配属された新人には「時間があったら、野球殿堂博物館に行って、いろいろ資料、本に目を通してたらいいよ」とアドバイスしていたのだが、実際に足を運んだ記者が何人いたか…。

昨年、選手時代に何年も取材をしたことがある、あるチームのコーチにこう言われた。「名取さん、報知の若い記者がね、『今年から担当になります。よろしく願います』とあいさつに来たんだけど、『それで、どなたですか?』って聞かれちゃったよ。昔だったら怒鳴りあげてるどころだよ。名取さんの教育が悪いんじゃないの?」

嗚呼…。彼の顔は笑っていたものの、これ以上ないほどの恥ずかしい思いをした。私の指導は全く無駄だったということか。しかし、うるさがられても、煩わしいと思われても、「歴史を学べ」—この事だけは言い続けようと思っている。

ちなみに、息子は6月からようやく通学が始まり、吹奏楽部に入部した。あれ? 吹奏楽部は野球部の試合がある時は、ずっとスタンドで演奏する事、分かっているのだろうか? まあ、部活をきっかけに、野球を身近に感じてくれたら、それはそれでいいか…。